

会報

山口七夕会

令和7年(2025年)6月

第57号

発行：会報編集委員会／事務局

題字/書・原野和夫氏



【大内弘世公の像と瑠璃光寺五重塔】

< 目 次 >

秋草会長挨拶	3
第 10 回春の花見ウォーキング 2025 (松陰神社、馬事公苑)	4
山口七夕会 親睦ゴルフコンペ第 11 回八木重二郎杯のご報告	6
ふるさと山口本部 楽農部会「冬の徳佐を楽しむ会」	7
令和6年度山口七夕会ふるさと山口本部 酎祭「講演会・交流会」	8
第 9 回山口七夕会ふるさと山口本部 音楽祭「輪-RIN-」～和をテーマに～	9
世界大会も視野に、バトミントンスマイルカップ開催	10
山口県の二つのスペイン友好協会	12
【リレーコラム:ふるさとの味めぐり】 Nishida Coffe (ニシダコーヒー)	
～コーヒーをもっと身近に、もっと楽しく～	14
老若男女問わず気楽に通える「山口ダイビングスクール」	15
「児童養護施設等の子ども達にちひろディナーショーをプレゼント」	16
悩めるママ達にもっと寄り添いたい～36 歳で看護学校入学、40 歳で助産師、そして助産院開院	20
【食は命】食べた物で身体は出来ている～未来に繋げるお野菜作り～	21
【1 万人に渋沢栄一翁の講談を届けたい！「神田京子大独演会 in 山口」で 10017 人達成！】	22
新入会員及び法人会員の皆さん	23
各種イベント等のお知らせ	24
< 山口市役所より > 山口市ふるさと産品販売イベントのご案内	25
投稿募集 / 公開会員名簿への掲載承諾のお願い / メールアドレス登録のお願い	26
事務局からのご案内 / 編集後記	27

※会報は山口七夕会のHPにもアップします。カラー版をHPでお楽しみください。

会長挨拶

動き始めた新しい七夕会



今年も5月中旬から「真夏日」の声を聞き始め、暑い夏になりそうです。最近の日本の夏は異常な暑さが続き体調を崩す方々も多く、イベントなども暑さを避けて開催されるようになっていきます。七夕会の総会も今年は真夏ではなく、少しでも涼しい季節に開催してはどうかと考えてみましたが、皆様のスケジュール調整は簡単ではなく少しだけ去年より前倒しして、7月第一週の土曜日に行うことになりました。山口からお見え頂く山口市長・市議会議長のほか、山口市役所関係の皆様も暑い中お疲れ様です。首都圏在住の会員の皆様にも、是非水分補給等を充分に行って頂き、体調にはご留意下さいませお願い申し上げます。

さて、先般の新年号では「新しい考え方の七夕会に向けて」という題で書かせて頂きました。七夕会も発足当初とはメンバーも入れ替わり、周りの環境や社会情勢も変わってきていますので、それに応じた会の在り方を考えてみたいという趣旨をお伝えしようと考えたからです。その後いろいろな方々からご意見を頂戴し、また過去の出来事なども教えて頂きました。特に山口からお見え頂いた山口商工会議所青年部OB会の永藤会長他皆様から、七夕会の起源になった世田谷区馬事公苑での「ちょうちん祭り」の映像を拝見させて頂き、当時の商工会議所青年団の皆様の努力と意気込みに改めて感激しました。役員の方々にもそうした過去の出来事、ご意見等を踏まえた上で新しい七夕会の在り方について精力的に考えて頂いています。

その過程で理解が深まってきたことも色々あります。中でも「山口市の発展に寄与する」という七夕会会則にもある表現の大切さが分かってきました。七夕会は単なる会員相互の親睦会ではありません。山口市から実質的に公認された団体なのです。親睦会で市から認められている会は珍しいと言えます。そのような七夕会であることに自信を持って活動することが大切です。ふる里を離れてふる里にまつわる色々な事柄を首都圏で紹介したり、山口市の名前を広めたりすることが、結果として山口市の発展に寄与することになる訳です。さらに山口市の出身者だけでなく山口市に興味がある、何らか山口市にゆかりがある方々にも輪を広げ、七夕会の活動を活発にしていきたいと思えます。活動の内容も会員相互の親睦を深めることに加え、SNSでの情報の発信、市のキャラクター等を使った宣伝や七夕会の歌を作って皆様で歌って頂くなど、新しく団結を生み出すアイデアもあります。その団結力や人の繋がり・ネットワークを活用して若い人達の活動を後押し、イベント等を通じて参加頂いた方々の「外から見た山口市とは何か」についての見方を認識・理解し、次の活動に活かすことも大切です。従来から行っている特産品の首都圏での販売も大切な活動ですが、それだけに留まらずさらに発展させ、興味のある方々にネットワークを広げていく努力をし、新しい活動の方向を探りたいと思えますので、宜しくお願い致します。

令和7年(2025年)6月
山口七夕会 会長 秋草史幸

第10回春の花見ウォーキング2025（松陰神社、馬事公苑）

本部・副本部長 岡本 達也（会員No.670）

2025年の東京花見ウォーキングは3月29日（土）に松陰神社、馬事公苑を小雨の中、14名の参加で行いました。

馬事公苑を選んだ理由は、山口七夕会の発足の原点が馬事公苑にあることからです。詳細は七夕会会報第55号「七夕ちょうちんを見るたびに」にあります。1993年東京都世田谷区の馬事公苑で開催された世田谷区民まつりに、山口七夕ちょうちんまつりを再現したのがきっかけで、1999年に東京に山口市の愛郷会「山口七夕会」が誕生しております。この1993年の仕掛け人が「ふるさと山口本部」の馬越尚史さんを中心とした山口商工会議所青年部の皆さんであり、当時の青年部も今はOBとなられ、2月7日（金）に山口七夕会東京本部と東京十条の「あまね」で交流会を持つことが出来ました。



【図-1 山口県ゆかりの地巡りモデルコース】

●松陰神社前（東急世田谷線）

集合場所は東急世田谷線の松陰神社前駅改札口としたのですが、何名かの方々は松陰神社待ち合わせと誤解され、スタートから不安になりました。

●松陰神社

吉田松陰は安政の大獄により処刑された後、小塚原の回向院に葬られました。高杉晋作や伊藤博文らが江戸の門下生達の手により、世田谷若林の地に改葬されました。のちに門下生の手によって墓畔に松陰神社が築られました。



【写真-1 山口商工会青年部OB会との交流会】

この交流会の中で、馬越尚史さんから馬事公苑での七夕ちょうちんの苦勞を当時のビデオテープで説明を受け、春の花見ウォーキングで馬事公苑を考えていた七夕会の後押しとなりました。馬事公苑に行くならば、近くの松陰神社を外すことは出来ません。世田谷松陰神社は山口県東京事務所の「首都圏在住の山口県ゆかりの皆様方と山口県ファンの皆様のホームページ」の「山口県ゆかりの地巡りモデルコース」にも紹介されております【図-1参照】。また、馬事公苑に行くならば近くの千歳通りの桜並木が綺麗だと本部幹事の小野美穂子さんの助言でコースに追加となりました。



【写真-2 松陰神社（世田谷区）】

●勝国寺

松陰神社の近くには勝国寺がありますが、境内には吉田松陰と親しかった儒者の土屋矢之助こと土屋蕭海（つちやしやうかい）の墓所があります。



【写真-3 勝国寺】

●馬事公苑（けやき広場）

馬事公苑は、1940年東京オリンピックに向けて日本の馬術選手を育成する目的で開設されました。同大会は日中戦争の影響で中止となりましたが、第二次世界大戦後の1964年東京オリンピックと2020年東京オリンピックでは馬場馬術競技の会場となりました。

馬事公苑の正門入口前にあるのが『けやき広場』であります。1993年東京都世田谷区の馬事公苑で開催された世田谷区民まつりに、山口七夕ちょうちんまつりを再現した場所が『けやき広場』であります。



【写真-4 馬事公苑（けやき広場）】

●千歳通り（桜並木）

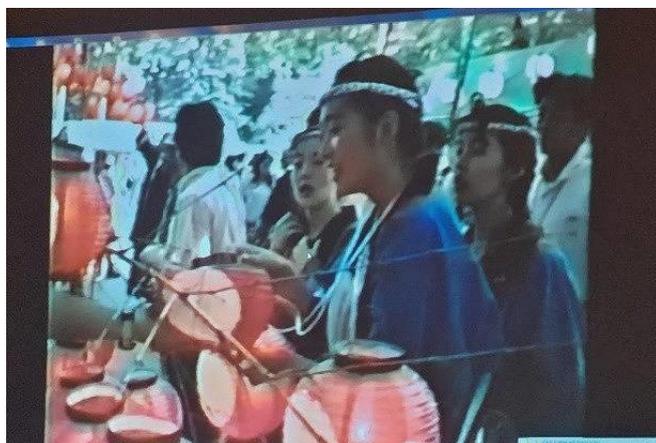
小野さんのお勧めであった千歳通りの桜並木を通り小田急線の千歳船橋まで桜を堪能しました。



【写真-5 千歳通り】

●あまね（懇親会）⇒解散

本部幹事長の関さんの東京十条にあるお店『あまね』に移動して、皆で懇親しました。馬越尚史さんから馬事公苑での七夕ちょうちんのビデオをお借りし皆で再度上映しました。今日のウォーキングは小雨の中でありましたが、'93年当日は初日大雨で数千個の七夕ちょうちんを破棄せざるを得なかった辛い映像も入っておりました。改めて山口七夕会の原点の地に皆で立ったことを噛みしめお開きとなりました。



【写真-6 懇親会（あまね）】

山口七夕会 親睦ゴルフコンペ第 11 回八木重二郎杯のご報告

山口七夕会ゴルフ部会 藤井 謙志 (会員No.611)

山口七夕会の創立 20 周年を期に復活した親睦ゴルフコンペは名称を“八木重二郎杯”とし、コロナによる中断をはさみ開催 11 回を数えるに至りました。徐々にではありますが新規参加者も増え、今後へ向けて更なる盛り上がりを目指しております。令和 7 年度も年 2 回の開催を計画しており、春季コンペは 5 月 9 日、埼玉県入間のオリムピックナショナル GC にて開催いたしました。ゴルフクラブは、関越自動車道 坂戸西スマートインターチェンジで下りてから約 15 km 程度と都内からも比較的近い場所に位置しています。

今回、お仕事や風邪による体調不良、山口へ田植えに帰山されている方などがあり、参加人数は過去最少でしたが、気温 23℃と天候とメンバーに恵まれ、難易度の高いグリーンとバンカーに苦しみながらも、和気あいあいとした楽しいラウンドで一日を過ごすことができ、ホールアウト後、帰宅途中、本格的な雨が降り出しましたが全く問題ありませんでした。

今回の優勝者は不肖私、藤井、準優勝は西村さんでした。ハンデに恵まれての優勝でしたが、コンペでの優勝は山口市にいらっしゃる安倍晋太郎外務大臣杯で優勝させて頂いて以来のことで大変光栄でした。また、毎回賞品として商品券をご提供頂いている八木前会長には誠に感謝しております。

クラブハウスにて簡単な表彰式を行った後、近場にある“苺の里ストロベリーガーデン”に立ち寄り、地元名産の新鮮なイチゴを使ったイチゴ大福、イチゴのショートケーキ、イチゴバームクーヘンを家族のお土産に購入して家路につきました。

令和 7 年度秋のコンペは、11 月 11 日 (火) を予定しております。皆さま振るってのご参加をお待ちしております。



ふるさと山口本部 楽農部会 「冬の徳佐を楽しむ会」

ふるさと山口本部 幹事 奥田 和彦 (会員No.752)

冬の徳佐を楽しむ会（イノシシの会・しし鍋の会）が、ふるさと山口本部楽農部会主催で令和7年1月26日（日）10時半～15時45分、山口市阿東地域交流センターで開催された。山口市内から阿東まで送迎バスも運行された。午前中3つの講演、午後は給食の時間（交流懇親会）音楽の時間。七夕会会員と徳佐地域の方が、日本の素晴らしい食文化を堪能しながら楽しく交流した。

チャーターされたバス（イノシシ号）が市内各地を巡回して参加者を迎えに。全員揃った車中では、すでに杯を傾ける方、会話を弾ませる方など、楽しい雰囲気徳佐へ向かう。



午前中は、3名の講師の方による講座。

1つめの講演は徳佐学講座として、吉松農園代表吉松敬祐様により「徳佐の農家の冬作業・糶についてのお話」。日本に小麦が入り、日本独自の食文化が変わったこと、森や水田を守っていくことの大切さのお話。

2つめの講演は徳佐地域活動講演として、しだれ桜保存会会長大場裕太様より「国指定名勝『徳佐八幡宮のしだれ桜あれこれ』。しだれ桜の寿命は400年以上とのこと。そのしだれ桜を保存会の皆様や地域の方々で大切にされているお話。

3つめの講演は健康学講座として山口赤十字病院院長末兼浩史様より「冬の健康について」として、認知症についてのお話。認知症についてもほかの病気と同じく、早期発見、早期治療がとても大切だと感じた。また、日常生活においても、社会とのつながりや役割など、適度な刺激も重要となるため、本日のような会へ参加して、皆様とお話をしながらおいしい料理とお酒を頂くことは、とても重要な認知症予防につながると勝手に解釈。



講演の後は、シシ鍋の時間。徳佐でとれた新鮮でおいしいお野菜とイノシシの鍋、煮込みや炊き込みご飯、お漬物などのお料理と、日本酒などご用意いただき、お腹いっぱい頂く。



食事を頂いている最中は、Q蔵様のライブ。お笑いのドブロックを彷彿とさせるユニークな歌や、Q蔵様作の八幡宮にしだれ桜の歌などが披露され、大いに会場が沸いた。

さらに、2月24日に独演会を控えた講談師神田京子様が来場され、独演会の紹介後、サイン会が開かれた。（ちなみに私もサインを頂く）。



会も後半となり、豪華景品が当たる可能性のある大抽選会。こちらも多くさんの景品をご用意いただき、大変盛り上がった。

最後は、全員で山口市民の歌を合唱してお開き。帰りの車中もお酒を傾けながら大盛り上がりでそれぞれ帰宅の途に。

今回も、会場の準備からイノシシ肉やお野菜などのご提供、調理から片付けまでのお手伝いなど頂きました徳佐の皆様には心から感謝申し上げます。



令和6年度山口七夕会ふるさと山口本部 酎祭「講演会・交流会」

ふるさと山口本部日本酒部会長 嘉瀬 修 (会員No.608)

酎祭は、令和7年3月1日(土)、伊藤市長、入江議長、二井元山口県知事、高村衆議院議員、福田百合子先生、パラバトミントンのミニアジア大会の参加者をはじめ、123名(交流会121名)の参加の下、セントコア山口で開催された。

講演は、熊本よりストーリーテラーの岡田かずえさんにお来いただき、岡田かずえ描きおろし「種田山頭火物語」と「雪女」。交流会は美味しい地酒と、すばらしい食材を生かしたほっぺが落ちそうになる美味しいお料理、最後はA.P.T.ダンスを踊り楽しい時間を過ごした。

18時、申神本部長挨拶、伊藤和貴市長からお言葉いただき、公演開始。

熊本県を代表するストーリーテラー、岡田かずえさんによる、描き下ろし「種田山頭火物語」。真野秀慈さんの素晴らしいギター演奏の共演。まっすぐに生きた種田山頭火の人生を、情景が浮かぶような語りで、披露！。改めて、種田山頭火について、認識を深めることができた。彼はいろいろな方に愛されていた。そして繊細な人だった！そして小泉八雲の「雪女」も語られた。会場の皆様、聴き入って、大拍手。



19時、岡田かずえさん、二井元山口県知事、伊藤和貴市長、入江幸江議長、福田百合子先生、申神本部長による鏡開きの後、入江議長の乾杯で開宴。初参加の二井関成元山口県知事にご挨拶いただいた。懇親会からは、パラバトミントンの選手26名も加わってくださり、会場至るところで賑やかな輪が。



恒例の利き酒大会

今回は、講演会のテーマ種田山頭火にちなんで、山口市の酒蔵金光酒造様をお招きし、金光酒造様のおすすめの日本酒を取りそろえていただいた。特に3月1日の種田山頭火の句限定ラベルの純米大吟醸酒を利き酒の優勝賞品に決めさせていただいた。

日々の酒山頭火 三六五句 あたたく人も空も



今回の利き酒大会の内容

県内の日本酒3種類から本日のお題(山頭火)純米吟醸を当てる！

※参加者は、受付完了後に、以下の三種類を飲んで練習していただいた。

- ① 下関酒造 馬関 純米吟醸
- ② 金光酒造 山頭火 純米吟醸
- ③ 永山本家 貴 純米吟醸

総勢14名による利き酒大会は、みなさん優秀で正解者は11名。

優勝は、じゃんけんで女性の山本さん。皆様ご参加ありがとうございました。



第9回 山口七夕会ふるさと山口本部 音楽祭「輪-RIN-」～和をテーマに～

ふるさと山口本部音楽部会長 山下 りえ子（会員No.724）

令和7年5月17日(土) 18時より山口市大内御堀、山口日産自動車本社内 MLG ホールにて第9回音楽祭「輪-RIN-」が開催されました。前日はかなりの悪天候で心配しましたが、63名の参加をお迎えし素晴らしい会となりました。

今回のステージのゲストは、尺八・重藤千賀子さん、箏・杉原紀子さん・パーカッション照喜名仙子さんをお迎えしました。彼女たちは、それぞれに演奏や指導の大活躍・大ベテランの3人で、半年以上前からスケジュールを押さえました。演奏内容は古典から現代曲まで幅広く、尺八と箏という日本の伝統的な楽器に、マリンバやインドネシアの打楽器が加わり、この3人の組み合わせでしか表現できない唯一無二の世界でした。ちなみに3人だけの共演は、この日が初めてだったそうです。

事を提供してくださるセントコア山口様、本当にありがとうございます。次回の音楽祭は節目の10回となります。山口七夕会の発展と共に音楽祭も盛り上げたいと思います。会員の皆様のご協力も宜しくお願い申し上げます。



第2部の懇親会は、セントコア山口さんによるケイタリング。和楽器にちなみ、和食メインをオーダーしました。これが大好評！！参加者のみなさんが、てんこ盛りのお皿を手に会場内を歩いておられました。毎回の会場提供をしてくださる山口日産様、お食



世界大会も視野に、バドミントンスマイルカップ開催

大浜 三平（会員No.746）

阿知須出身の私(三平)は、千葉県柏市で妻や息子の真とともに、障がい児・障がい者の体育指導を行うNPO 法人スマイルクラブを運営。真は、交通事故により車イス生活になりましたが、障がい者バドミントン(以下、パラバド)の選手になり、山口市とのご縁を得て、市内の小・中学校、高校において共生社会授業の一環としてパラバド出前授業を行ってきました。

これまで海外のスポーツ事情、特にウインブルドンテニスを視察した際には、錦織選手と車いすの国枝慎吾選手の試合が、コートは違えども同時に行われている姿に、まさに“共生社会のモデルだ！”と感動。2019年バーゼルでのバドミントン世界選手権では、世界で初めてバドミントンとパラバドが同一会場で開催され、真と桃田選手の試合が隣同志のコートで同時に行われるなど、海外では健常者と障がい者が時と場所を同じくしてスポーツを行う事例が沢山あります。

翻って山口県を見ると、男子それぞれのチームが社会人バドミントンリーグに参加し、また、優れた選手を育ててきた環境がありますが、先述の国外の事例を踏まえ、ふるさと山口市において共生大会を展開したいという衝動から、2022 年度より“バドミントン スマイルカップ”を開催しています。一昨年度には台湾高雄市からパラバド選手団が初来日・参加してくれました。さらに、今春は、スポーツと観光をコラボするスポーツ庁のモデル事業10か所にパラスポーツとして唯一採択され、山口市を拠点とする3日間のユニバーサルツアーとスマイルカップを企画・検討しました。

関係機関からご提案やご支援をいただき、また、共感いただいた方のボランティア参加やご寄付、ふるさと山口市の高校同級生諸君の協力により、韓国・台湾と国内からパラリンピックメダリストなど約20人が参加しました。

山口市は県内観光の中心点であるとともに、食や市民の皆さんの心の温かさがあります。選手たちにはこれを実感した上で国内外に山口市の魅力を発信してもらいたく、山口七夕会ふるさと山口本部の懇親会”酣祭”に参加させていただきました。大勢の参加によりご迷惑をお掛けしましたが、「交流できて楽しかった」、「また来たい」、「山口は本当にいいところ」などの言葉もいただき、この場をお借りしてふるさと山口本部の皆さまに心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。(以下は、スマイルカップ大会責任者である私の息子の大浜 真による文章となります。)

1. ユニバーサルツアー[2月28日(金)]



ツアー立案に先立ち、車いすの立場から候補地を下見し、段差や急な坂の有無、障がい者用トイレが近くにあるかなどを重点的に調べた上で、車いすでも可能な観光地を選択し、韓国・台湾選手団を案内しました。

まずは、ジオガイドに同伴いただき、「秋吉台ジオパーク」と「秋芳洞」を観光。山口市に帰還後は、瓦そばを堪能。「瑠璃光寺」観光後、「山口ふるさと伝承センター」にて箸作りの大内塗体験を実施しました。皆さんは、手に持ち切れないほどのお土産を購入したり、観光を楽しんだり、満足度調査の結果、非常に満足していただけたこと、山口市内でお金を使っただけだことが分かりました。

今後の課題として、①段差により車いすでは行けない観光地がいくつもあり、簡易スロープを付けるなどバリアフリー化が必要 ②障がい者用の宿泊部屋数が少ない ③いちご狩りも観光客には人気があるので、アクティビティとして、障がい者用トイレもあり、車いすでも楽しめるいちご農園があると選択肢が増えると感じました。

今後とも、山口県・山口市、そして七夕会の皆様とともに、地域活性化に微力ながら協力できたらと考えております。

2. バドミントンスマイルカップ[3月1日(土)・2日(日)]



健常者の「小学生の部」と障がい無くても車いすに乗って参加できるインクルーシブ形式の「車いすの部」を、同時に維新百年記念公園内にある維新大晃アリーナの同じフロアで実施しました。



私たちは、障がいの有無に関わらずスポーツは共通であるべきとの考えのもと、バドミントンの中にバドミントンもパラバドも含まれるべきだと思い、今回の大会では、参加した子ども達や親御さんたちがパラバドを

見る・知るきっかけになり、さらには体験もできるブースも用意しました。そうすることで、地道で少しずつですが、誰もが笑顔で過ごせる共生社会実現に近づけると確信しております。

今回は国の事業を活用し、世界トップレベルの選手による大会となりましたが、今後もこのようなイベントを開催するには、優勝賞品として山口らしい物産にするとか、地酒の試飲ブースを出したりすることで山口県の魅力を発信するとともに、選手だけでなく地域の人も楽しめるような仕掛けが必要だと考えております。

一方で、海外から参加するには費用がかかることや、費用がネックとなって海外選手が参加しないと国内選手も参加しない、といった資金面での課題があり、父であり七夕会会員である三平の同級生を中心に NPO 法人の設立を検討中です。



小さな芽が出はじめたパラバドミントンをモデルとした地域活性化・まちづくりプロジェクトを毎年開催し、国内はもとより世界中からも選手や家族が山口に来てもらえるような大きなイベントにしていきたいと願っておりますので、今後とも、七夕会の皆さまのご協力をよろしくお願い申し上げます。

★当日の動画を、各 QR コードから見ていただけます。



山口県の二つのスペイン友好協会

ふるさと山口本部・顧問 渡邊 史信（会員No.364）

過去欧州駐在14年弱の話は色々させていただいたが、今回は特にスペインについて記します。スペインは皆さんにとっても親しみのある国の一つでしょう。特に山口市はフランシスコ・サビエルのキリスト教布教の地として、その歴史とサビエル記念聖堂に代表される史跡は宗教を超えた故郷の一部となっているのではないのでしょうか？

山口市には「山口スペイン・ナバラ協会（以下ナバラ協会）」があり、又今年は山口市とナバラ州パンプローナ市との姉妹都市提携45周年にもあたります。それを記念して伊藤山口市長・入江市議会議長他の公式訪問団が5月17-19日にパンプローナ市を訪問し、それに合わせてナバラ協会を中心に市民訪問団も結成され12-19日にバルセロナ-サラゴサ-サンセバスチャン-ビルバオ-パンプローナを訪問します。私も協会の理事として会員の家内と共に参加致します。

一方宇部市は2013年5月にMr Bataller カステジョン市長（当時）から久保田宇部市長（当時）宛の両市の交流を進めたい旨の親書を、カステジョン出張中で市長を表敬訪問した際に私が直接預りお渡しした事から交流が始まりました。その後両市は令和元年(2019年)4月4日、宇部市渡辺翁記念会館において、姉妹都市提携調印式を執り行い、以降コロナ禍を含めて丸6年間経過して参りました。

ちなみにカステジョン市はバレンシア州カステジョン県の県都で、地中海東海岸に面し、東経西経0度北緯40度の交点にある温暖で山海の食材に恵まれた、特にオレンジとオリーブとセラミックの街です。パエリアの生まれ故郷で本場でもあります。

私は1988年4月にドイツ・デュッセルドルフ市にある宇部興産(株)（当時）の欧州拠点であるUBE EUROPE GmbHに駐在員として派遣され、1991年6月にカステジョン市に工場をもつ化学会社を買収する端緒を開きました。その後1993年12月末の買収契約調印を経て1994年4月に初代駐在員としてカステジョン市に異動駐在し、以降計2回・7年半の間欧州UBE社の役員及び会長・社長として事業の発展と共にカステジョン市との友好関係や地域貢献に努めてまいりました。宇部市との姉妹都市縁組につきましても、取り組みを続けた経緯がございます。

その縁とカステジョンに対する郷愁にも似た想いから、本協会設立を思いたち、共に駐在員として苦勞した仲間や趣旨に賛同する友人達と共に設立に向けて諸処準備を24年初から行って参りました。

そして在日スペイン国大使館、宇部市、カステジョン市、UBE(株)他関係各方面のご理解とご支援を得て、2025年3月22日に宇部市国際ホテル宇部におきまして設立総会を開催し、私は会長として設立を宣言することができました。



【宇部スペイン・カステジョン友好協会設立総会 2025年3月22日】

この協会設立により、両市民レベルの相互理解・友好親善を促進するとともに、様々な分野での交流活動を通じて青少年の国際人材育成や地域の活性化に貢献をしたいと考えております。山口市と宇部市、二つの友好協会がスペインを切り口に共に山口県の国際交流の実を上げていければとも考えております。又山口七夕会の会員の中からもこの協会の役員や会員になっていただいております。どちらの協会でも結構です。スペインや協会の活動にご興味のある方はご連絡ください。

ちなみに外務省のHPによりますと現在日本に以下の12の姉妹県・都市協定が存在しているそうです。どういう関係か興味がありますね。場所も含めてお調べいただけると幸いです。尚そのうち山口県関係が25%の3件です。

奈良市ートレド市 (1972年)、
山口市ーパンプローナ市 (1980年)、
丸亀市ーサン・セバスティアン市 (1990年)、
呉市ーマルベージャ市 (1990年)、
大船渡市ーパロス・デ・ラ・フロンテラ市 (1992年)、
三重県ーバレンシア州 (1992年)、
神戸市ーバルセロナ市 (1993年)、
清須町ーヘレス・デ・ラ・フロンテラ市 (1994年)、
豊岡市ーアlicanten市(バレンシア州) (1996年)、
熊野古道(和歌山県)ーサンティアゴ巡礼道(ガリシア州) (1998年)、
山口県ーナバーラ州 (2003年)、
宇部市ーカステジョン・デ・ラ・プラーナ市(バレンシア州) (2019年)

以上(パンプローナ市民訪問団訪西直前5月7日記)。



【スペイン・パンプローナ市日本文化協会メンバーと山口スペイン・ナバラ協会を中心とした訪問団】

【リレーコラム：ふるさとの味めぐり】 Nishida Coffee (ニシダコーヒー)

～コーヒーをもっと身近に、もっと楽しく～

西田 幸誠 (会員No.681)

Nishida Coffee (ニシダコーヒー)の西田幸誠と申します。私は京都市で生まれ、幼いころは山口市大内で育ちました。実家は京都市北区で喫茶店を営んでおり、私にとって「コーヒーのある風景」はとても身近なものでした。

両親のお店は古く小さな喫茶店でしたが、常連のお客様が集い、コーヒーを片手に笑顔で会話を交わす、あたたかい空間でした。高校生になった私は、学校帰りに自然と店へ足を運ぶようになり、お客様と会話するのが楽しくなっていました。その頃からコーヒーが持つ不思議な力に惹かれていきました。

お客様と会話を交わすその時間は、私にとって何よりも楽しく、そして心地よいものでした。たった一杯のコーヒーが人と人をつなぎ、日々の疲れを癒し、時には静かに背中を押してくれる。そんな場面を何度も目にしながら、私自身の中にも「いつか自分も親のようにコーヒーを届けたい」という想いが芽生えていったのです。

その後、結婚を機に再び山口市にご縁があり、湯田温泉で暮らすことになりました。この街のゆったりとした空気感と、あたたかな人とのつながりがとても心地よく、「ここで自分のコーヒー屋を始めたい」と自然と思うようになりました。

こうしてオープンしたのが、Nishida Coffeeです。

Nishida Coffeeのモットーは、「コーヒーをもっと身近に、もっと楽しく」。コーヒーは特別な時にだけ飲むものではなく、毎日の暮らしの中に自然と溶け込んでほしい。そして飲むたびに、ちょっと気持ちが軽くなったり、楽しくなったり、ほっとしたり。そんな存在であってほしいと願っています。

当店では、厳選した生豆を自家焙煎し、鮮度と香りを大切にしていますが、それ以上に大事にしているのは「届け方」です。地域によっては、近くにカフェがない、忙しくてなかなかお店に行けないという方も多くいらっしゃいます。そんな方々にも気軽にコーヒーを楽しんでいただきたいという想いから、キッチンカーによる移動販売をスタートしました。

イベント会場、オフィスの駐車場、公園、住宅街など、日常のさまざまな場面に、香り高い一杯を届けています。キッチンカーはただの移動販売車ではなく、ちょっとした「出張カフェ」であり、「会話が生まれる場所」でもあります。車の

窓越しに交わす何気ないやりとり、ふと立ち寄ったお客様の笑顔、そのすべてが私の原動力です。

私にとってコーヒーは、会話を楽しむためのツールであり、料理を引き立てるアイテムでもあります。朝の食卓、友人との団らん、仕事の合間。どんなシーンにも自然に寄り添い、その場にぬくもりと潤いを添えてくれる存在です。

「美味しかったよ」「また来るね」「お土産に買ったよ」。お客様の何気ない言葉が私にとっては嬉しい一言でした。だからこそ、Nishida Coffeeは、ただ豆を売るのではなく、“コーヒーのある豊かな時間”そのものをお届けしたいと考えています。

湯田温泉の街から、一杯のコーヒーで笑顔をつなぐ。そんな思いを胸に、今日も豆を煎り、カップを満たし、皆さまとの出会いを楽しみにしています。香りとともに、想いも届ける。それが、Nishida Coffeeのあり方です。

Nishida Coffee

住所：山口県山口市湯田温泉五丁目 7-6

営業日：月～金 12:00～18:00

土祝 9:00～18:00

業態：コーヒー豆小売、卸、出張喫茶



老若男女問わず気楽に通える「山口ダイビングスクール」

廣 政昭（会員No.887）

「ダイビングを通して海と人をつなぐ」をコンセプトにスキューバダイビングの【ライセンス取得講習】【体験ダイビング】などのサービスを提供している「山口ダイビングスクール」の廣です。

店舗は、JR 湯田温泉駅近くのクスリの岩崎チェーン様向かいに立つコンテナハウスです。

私は、趣味で始めたダイビングを仕事にしてあっという間の30年が過ぎました。これまで、1万人以上のダイバーを認定させて頂いております。

県内のダイビングスクールで25年以上ダイビングインストラクターとして経営にも関わらせていただきました。

その経験を活かし、自分達だからこそ出来ること・自分達しか出来ないことを経験したくて、2023年に「山口ダイビングスクール」を設立いたしました。

ダイビングを始める9割の人が1人で店舗へ遊びに来てくださいます。

趣味を持ちたい人、泳げない人、親子で始める人、60歳からのチャレンジする人など、様々な人がご来店されるのですよ。

最初は皆さん、呼吸ができない…上手に泳げない…バタ足ができないなど色々な事が起こります。そんな人たちも楽しみながら継続をしていくと、必ず上達をしていきます。

沖縄や海外でダイビングすることを目標にして、山口県の海を満喫されていますよ。

ダイビング場所は、長門市青海島・萩市虎ヶ崎・周防大島などです。

他にも潜れるポイントがあれば是非教えてくださいね。

海の中は、四季によって見られる魚や景色が違います。昨年10月から【イルカ】が週に2~3日姿を見せてくれます！イルカに出会ったお客様は大興奮です。

私も30年間のダイビング人生で、野生のイルカがこんなにフレンドリーなのは初めての経験です。

1年中楽しめるダイビングの魅力をお伝えすると共に、海の怖さについても知ってもらい、安全第一でダイビングできるようサポートしております。

三方を海に囲まれている山口県。

海の素晴らしさ・偉大さ・そして変わりゆく環境をこれからも発信して行くことが、私たちの使命だと感じています。

山口県の海の豊かさを県内外の多くの人へ伝え・繋ぐこと。

『在るもの』を守り続けることや活用することはとても重要だと考えています。

そんな同じ志を持つ人たちと海を通じて繋がっている事は、本当に有難いことです。

異業種でも構いませんので、ぜひ、繋がって「海と人をつなぐ」事を一緒に取り組めたらと思います。

また【ツナグ活動】として海岸清掃活動を定期的に行っています（協賛してもらっている企業様大募集中）です。

まずは、話を聞きに来るだけでOKです。

山口県の海を一緒に感じませんか？
皆様のご来店お待ちしております。



「児童養護施設等の子ども達にちひろディナーショーをプレゼント」

株式会社ベルミューズ 代表取締役 長尾修志(法人会員)

2024年7月の夏休み、ホテル「セントコア山口」にて、山口市内3つの児童養護施設の子ども達と職員、そして母子生活支援施設の子ども・お母さん達と職員、合計4施設109名をご招待して、昼夜2公演の「ちひろディナーショー」をプレゼントしました。

参加した子ども達は大変喜んでくれ、またあるお母さんは「もう二度とこんな素敵なことはないかもしれない」と施設の職員に話し、涙を流してくださった方もおられました。

全国各地からのクラウドファンディング、個人、企業や団体からもご支援をいただき、山口七夕会会員の皆様からも温かな募金をいただきました。大きな勇気と背中の後押しをいただきましたこと、改めて感謝申し上げます。本当に有難うございました。

きっかけ

ちひろはこれまで、山口県内外の児童養護施設や母子生活支援施設等を訪れ、ボランティアでのコンサート開催やクリスマス会参加などの様々な交流をしてきましたが、コロナ禍はその交流が数年間途絶えてしまいました。そんな中、私がちひろに「子ども達元気かねえ。コロナも少し落ち着いてきたからまた交流したいね」と話すと、ちひろが「逢いたいねえ。いつかディナーショーをプレゼントできるといいなあ。」と言いました。

「ディナーショーをプレゼントする」

その言葉を受けて少し驚きましたが、「それやろうよ、実現しようよ!」と言葉を返しました。

自分達はボランティアで出来るけれど、どのようにしたら計200万円の経費を集めることができるか。初めてクラウドファンディングのプロジェクトとして立ち上げ、直接の働きかけも同時進行し、準備を重ねました。

日頃、童謡詩人金子みすゞの詩に作曲し歌い語る活動をしているちひろ。みすゞさんからいただくご縁への感謝、恩を子ども達やお母さん達に送る「恩送り」の想いでした。

各プロフェッショナルのおもてなし

資金が集まるのか不安もありましたが、子ども達を想う気持ちが全国から寄せられ、目標を大きく超える金額が集まった為、飲み放題のフリーソフトドリンク、各施設の送迎バス、お土産の「金子みすゞお菓子」など、オプションを追加することができま

した。

本番当日。受付スタッフとしてお手伝いをしてくださったのは県内各地から大集合した「ちひろ親衛隊」メンバー。



そして、日頃フォークやナイフを使ってのディナーをいただく機会は滅多にない子ども達に、セントコア山口の安田支配人がテーブルマナー講座を開き、順番にコース料理をいただく笑顔の子ども達。



この日は暑い一日だったので、増本総料理長がトウモロコシの冷製スープに塩分を少し足す配慮も。子ども達から大好評でした。メインのお肉、山口県の高級ブランド「高森牛」は海外へ渡る予定のものを急ぎよ手配され、ドリンクも「きっと子どもはフルートグラスで飲むのが楽しいだろう」「炭酸ジュ

ースは施設で飲む機会が少ないのでは？」という総料理長の想い。厨房スタッフからも「ストローがあったほうが飲みやすいかも」と、いろんな気づきを形にしてくださいました。



「ぼく、5杯も飲んだ！」と弾ける笑顔の子どもも。



ちひろショーでは、金子みすゞの詩の歌と共に、ジブリ映画、山口県で流れるCMソング、アニメの主題歌など、みんなで一緒に歌って盛り上がりました。



そして童謡「ぞうさん」の編曲遊び。「ちっちゃいぞうさん」「大きな大きなぞうさん」「雨の日にたそがれるぞうさん」「沖縄民謡の音階のぞうさん」をピアノで弾き語り。シンガーソングライターちひろならではの、そんなアレンジ違いの「ぞうさん」も楽しんでもらいました。

司会を務めてくださったのは、エフエム山口の新井道子さん。子どもたちを優しく包んでくれる温かな声で会場が和みました。

そして「自分も力になるよ！」と駆けつけてくれたサプライズ出演の長野亮アナウンサー。



更に湯田温泉からは白い狐のマスコットキャラクター「ゆう太」と「ゆう子」も登場し、会場全体が笑顔に包まれました。



児童養護施設の子も達は、「ゆう子」とちゃんとみんなで肩を組んで写真を撮ったり、ある男の子は「ゆう太」くんにごゅっと抱き着いて離れない姿もありました。

その光景は忘れることができません。それぞれの立場からのおもてなし。そこにはプロとしての誇りがありました。



こぼれ話

各施設から会場への送迎をバス会社に依頼しましたが、バスの運転手さんによる談話です。

「行きも興奮気味だったけど、帰りも誰一人として笑顔じゃない子どもはいなかった。自分達は送迎しかしていないけど、なんだか良い事をした気分が嬉しいです。」と。また、バスの中では子ども達の大合唱もあったとか。



実はもう一つ心に刻まれたエピソードも。施設がある場所は決して道路が広いところばかりではなく、ある施設は敷地内にバスが入れず主要道路で待機して乗り降りする必要があります。いかに子ども達が安全に乗り降りできるか、横断歩道を渡ることが少なく済むか、ルート確認やシミュレーションを何度も社内で重ねてくださったそうです。プロフェッショナルには、こうした「見えないところの思いやり」があることも実感しました。

NHK ニュースで他の施設も励みに

ディナーショー当日、NHK 山口放送局と宇部日報社が取材に来てくださり、テレビニュースや新聞記事としてご紹介いただきました。

特に NHK のニュースは山口県内のみならず、中国 5 県でも放送されたため、鳥取県にある母子生活支援施設の職員の方が偶然ご覧になられて、「ニュースを見た！」と喜びの気持ちを、山口市の母子生活支援施設の職員さんにご連絡をされたそうです。

事情があって入所された母子家庭の皆さんを、いつも温かく支えていらっしゃる施設の職員さん。仕

事上の苦悩や葛藤があっても、常に笑顔で接していただける職員の皆さん。見えないところではきっと涙を流されることもあると思いますが、そんな皆さんが安心感と勇気を得られる一つには、地域や社会とのつながりが大きいのだと思います。

ニュースを通じて、鳥取県の施設の方が「山口の施設はしっかり地域とつながっている、私達も頑張ろう」そう思っていただけなら、このプロジェクトが更に大きな喜びになります。

そして、テレビや新聞で報じていただいたことは、どこかで頑張っている見えない誰かを支える、その大きな力も感じました。



子ども達やお母さん・職員さんのお声

会場では喜びや感激の声がたくさん溢れ、子ども達からは「ちひろさんの歌声とっても綺麗だった！」という声や、中には数人で声を揃えて、「せーの！ゆう太くん、また湯田温泉に来るからね！」と言う子ども達も。

母子生活支援施設に暮らすお母さんのお一人がちひろに、「実は以前はピアノを弾いていたんです。久しぶりに弾きたくなりました。」と話しかけられました。ちひろは「ちょうど施設にピアノがあるから弾かれたらいい！」「そうします、聞いてみます。」と嬉しい会話もありました。

翌日各施設からのお電話で、「子ども達、お母さん、施設の職員みんなにとって一生思い出に残る一日でした」「とっても有難かった！また頑張れます！」と。嬉しいお言葉でした。

今回、急遽体調不良や部活動の参加、お留守番等で当日参加出来なかった方へは、同じメニューのテイクアウトを希望人数分お持ち帰りいただきました。これも支援金が目標額を超えたから出来たことです。皆様の大きなお気持ちのおかげ様です。

そして、とても嬉しいことに、後日、全施設から子ども達の御礼メッセージが書かれた寄せ書きの色紙、お母さん達のお手紙などが届きました。こだまし合えた心と心。金子みすゞさんの願いが一つの形となりました。

様々な事情があって、山口市内の施設に入所し生活している子ども達やお母さん。それを支える職員の皆様。元々は山口県外の方もいらっしゃいます。事情があったにせよ、今、山口市に暮らす皆さんに、「山口市って良いな、温かいな。まわりに見守られて暮らしているんだな。」そう思ってもらえたらとても嬉しいです。



国際ソロプチミスト防府「クラブ賞」受賞

今年の5月、防府市の「国際ソロプチミスト防府」から、このプロジェクトを評価いただき、ちひろが代表して「クラブ賞」をいただきました。クラブ賞とは、地域社会への奉仕活動や優れたプロジェクトを表彰するもので、このプロジェクトの活動を評価いただいたこと、それは本当に有難いことでした。

金子みすゞの詩「私と小鳥と鈴と」の言葉「みんなちがって、みんないい。」それぞれ違う役割を持っているみんなが、力を出し合って一つのことを成し遂げる。それがこの「みんなちがって、みんないい。」の真髄だと思います。それがこのプロジェクトにはありました。



あとがき

ディナーショーが始まる時、私がプロジェクト運営責任者として乾杯の発声とともに、参加者の皆さんに向けて挨拶をいたしました。

「今回、このディナーショーをプレゼントする為にホテルの方、司会者、音響照明、スタッフのみんなが“一緒にやろうよ!”と言ってくれました。そして、何より北海道から九州の方、もちろん山口県の方々、合計500人以上の方が支援をしてくれました。それは、ここにいるみんなのことが私達大人にとって社会にとって“宝物”だからです。“大切な存在”だからです。」

もしかしたら、そのひと言を子ども達に伝えたいがために、ちひろが「ディナーショーをプレゼントしたい」と言った時、「それやろうよ、実現しようよ!」と言ったのかもしれませんが。

次回、このプロジェクトのディナーショー開催は未定ですが、少しずつ無理なく継続できたらと思っています。

これからもみんなで支えあい、思いやりのある山口市でありますように。私も一人の役割ある人間になれるよう、これからも山口で頑張っていこうと思います。

このプロジェクトの活動報告は、こちらからご覧いただけます。

READYFOR「終了報告」ページより



悩めるママ達にもっと寄り添いたい

～36歳で看護学校入学、40歳で助産師、そして助産院開院～

江藤 美知子（会員No.619）

山口市大内で出産を取り扱う助産院を開業している助産師の江藤美知子です。2011年に開業してから今年で14周年を迎えます。これもひとえに関係機関の方々、助産院に来て下さるママや赤ちゃん、その他多くの方々のお陰様と厚く御礼申し上げます。

私は現役時代には音楽科でピアノを専攻していました。卒業後は当然の様に音楽教室の講師やピアノの個人レッスンをしていましたが、第5子出産時に人生の転機を迎えました。その時の担当助産師の姿を見て憧れ、また自分が5人の子どもの母親になれると思っていませんでしたのでその幸せの恩返し、色んな方達にお世話になって母親業ができていたので今度は私が母親になる方のサポートができれば、などという様々な思いが頭の中を駆け巡りました。そこで一念発起をし36歳で看護学校に入学、卒業後助産学校に入学して、40歳で助産師の免許を取得して助産師として初めて社会に飛び立ったのでした。

就職した産婦人科では助産の技術を身に付けながら、様々なママ達に関わらせていただきました。産婦人科病棟には色んなドラマがあります。多くは喜びの声、明るい笑い声に溢れているのですが、その裏では24時間慣れない育児に戸惑うママ、涙するママ、家族関係に悩むママ、などが多くおられました。出産は1日、人によっては数日かかることもあります。それでも必ず終わりが来ます。しかし子育てというのは出産してからスタートで、24時間365日エンドレスです。しかも一度出産をすると「母親」という役割は一生ついてきます。自分の子育て体験と重ね合わせながら、悩めるママ達にもっと寄り添いたい、という思いが強くなりました。病院勤務の限られた時間内では限界があり、自分の受けられる人数の方を我が娘の様にサポートがしたい、という思いから、当時の勤務先の医師の御理解と御協力の元、無事に助産院を開業する運びになりました。

今、助産院には色んなママ達が来て下さいます。助産院での出産を希望される方の思いも様々ですが、多くの方はご家族と一緒に出産の時を過ごし育児のスタートを切りたい、というご希望をお持ちです。出産というのは命を懸けて心身共に極限に挑む、女性にとっての大仕事。それをご家族と一緒に寄り添い、共に泣き共に笑い、「もう無理です」と思わず弱音を吐かれる時には「今ここで頑張らずにどうする？人生そんなに頑張る時なんてないよ！」と叱咤激励しながら過ごす日々

が、私にとってはこの上ない喜びで、身に余る光栄です。

今のご時世を鑑みますと不安定な要素がたくさんあり、先行き不安になることも多くあります。しかしこの命の誕生、ママ達の努力と頑張りを見ると、日本の未来は明るい！と思うのです。

今後益々地域の母子保健に貢献できます様に精進して参ります。



【助産院 赤ちゃんのほっぺ（山口市大内長野）】

【食は命】食べた物で身体は出来ている～未来に繋げるお野菜作り～

ふるさと山口本部 副本部長 松西 照美（会員No.555）

てるみんガーデンファーム代表 松西照美です。私が農業に関わるきっかけは、ある会社の会長さんとの出会いがあったからです。

会長さん曰く、『農業は、最大の環境破壊ですよ』。農業が環境破壊ってどういうことなんだろう？健康関連のお仕事をしていましたので化学肥料や化学農薬、除草剤など、私達の健康に影響していることは、漠然とは知っていましたが、まさか環境破壊をしているとは、本当にびっくりでした。

地球の未来のため、子供や孫の時代まで残せる環境作りが必要だと知らされました。

そんな時に、知り合いの方から、トマトを作ろうって声をかけていただき、農業に本格的に関わるようになりました。

一口に、有機栽培と言っても幅広く、本当に人それぞれです。有機栽培＝安全と思われているかもしれませんが、決して有機栽培＝安全ではないということ、直接口に入れる物を作っているのですから、そこがとても重要なことです。

てるみんガーデンファームでは、化学肥料、化学農薬、除草剤を使わないことはもちろんですが、土と水、そして環境、にこだわっています。

土作りは、米糠、籾殻、落葉等をベースにして、有用菌で土を作ります。

水は、山の圃場は山の一番水、御堀の圃場では、井戸水を汲み上げ、外からの汚水が入らない様に溝を掘っていますし、何より、どちらも近くに田畑が隣接していないので農薬の飛散もありません。

そしてもう一つ、肥料分を最小限にしています。その分愛情をたっぷりかけて育てています。

子供や孫に、安心して食べさせる事の出来るお野菜、そして、環境に優しく CO2 の削減にも寄与でき、持続可能で再現性のある農業を目指しています。

てるみんガーデンファームの看板お野菜は、生で食べられるかぼちゃ！かぼっコーリー&照美んトマト、近江白生姜、さつまいもですが、他にも年間50種類以上のお野菜を作っています。

家庭菜園に毛が生えたくらいの小さな農園ですが、『産直アウル』というECサイトで全国発送もしています。もちろん、直販もしています。是非ご賞味ください。



【かぼっコーリー】



【近江白生姜】

【1万人に渋沢栄一翁の講談を届けたい！「神田京子大独演会 in 山口」で10017人達成！】

～神田京子芸歴25周年ファイナルは、7月6日（日）東京公演～

機関誌編集長 庄 栄一郎（会員No.475）

山口市に移住されて丸五年の講談師神田京子さんは、新一万円札の顔が渋沢栄一になったことにちなんで、昨年6月「1万人に渋沢栄一翁の講談を届けたい！」と請願を立てられました。目標期限は令和7年7月まで。令和7年2月24日、予定より5か月早く、山口市 KDDI 維新ホールで1万人達成。

令和7年7月6日東京公演がファイナル。皆さん、25周年を見届ける立会人になられませんか。

山口七夕会ふるさと山口本部では、令和6年8月の夏の講演交流会において、神田京子さんに講師をしていただきました。演題は『芸歴25周年！「講談 渋沢栄一伝」を新一万円札にちなんで1万人に伝えるプロジェクト！大行進中！神田京子の大挑戦とは！』

講演は大いに盛り上がり、2月24日の「大独演会 IN 山口」では、「KDDI 維新ホール1500席を埋めたい」と神田京子さんが目標宣言されると、「七夕会の今日の参加者73名皆が本気を出したら、1人10人ずつ連れて、あっという間に700人になるぞ〜」。

と威勢のいいことをぶち上げたものの、いざ実際に販売となるとなかなか。山口七夕会関係者は、1階前方「シブサワ席」(芸歴25周年オリジナル、ミニ座布団付き)で応援したものの、神田京子さんの期待に十分応えられなくて申し訳なく思っています。しかし神田京子さんご本人の実力と努力、そして実行委員会の皆さんの熱意がみのり、当日入場者は1,287人。KDDI 維新ホールをほぼ埋め尽くす大盛況。おまけに累計10,017人、予定より5か月も早く1万人の目標達成。人口20万人にも満たない地方都市でも「やればできる」ことを証明されました。

1万人に伝えるプロジェクトも7月6日（日）、北とびあホール(東京都北区八王子)での「神田京子大独演会 in 東京」でファイナル。皆さん、25周年を見届ける立会人になられませんか。

★神田京子25周年(7月6日東京公演)

<https://kandakyoko-ouen.net>



【KDDI 維新ホールを埋め尽くす大盛況】

＜ 新入会員(個人会員番号・氏名)及び法人会員の皆さん ＞

《令和7年1月号掲載以降の新入会員》 ※氏名、住所は公開会員名簿への掲載承諾者のみ

会員番号	氏名	住所	法人会員
890	桑原 理恵	山口県山口市	山口日産自動車株式会社
269	細谷 美子	東京都千代田区	旭水産有限会社
891	伊藤 満	山口県山口市	株式会社 常盤
892	末兼 浩史	山口県山口市	株式会社 地域情報新聞
893	長崎 孝司	山口県山口市	株式会社 技工団
894	河村 幸子	山口県山口市	有限会社 劇団角笛
895	秋本 浩之	山口県山口市	マルシフードサービス株式会社
897	森重 晶子	山口県山口市	社会福祉法人青藍会
898	中崎 理佐子	東京都港区	株式会社セブンシステム
899	井上 貴之	山口県山口市	株式会社ベルミューズ
900	潮崎 泰次郎	山口県山口市	一般社団法人日本自動車連盟山口支部(JAF 山口支部)
901	大橋 正範	茨城県つくば市	BRAIN SIGNAL 株式会社
902	亀谷 千春	山口県山口市	弁護士法人 末永法律事務所
			株式会社アドギルド・ジャパン
			公益社団法人 山口被害者支援センター
			株式会社 小郡衛生公社
			株式会社 エフエム山口東京支社
			株式会社 竹内酒造場
			C & C 山口
			湯田温泉旅館協同組合
			公立学校共済組合山口宿泊所 セントコア山口
			株式会社 クリエイティブ・トゥエンティワン
			株式会社 エボリューション
			株式会社 原企画

令和7年5月31日現在の会員数：個人会員384 法人会員24

＜ **令和7年度山口七夕会年次総会** ＞

- 日時：令和7年7月5日（土）10:30～14:30
- 場所：インテリジェントロビー・ルコ（東京都新宿区揚場町2-1 軽子坂 MN ビル1F）
- 内容：【総会】10:30～12:00
【講演会】12:00～12:45
講師：地球の歩き方 由良暁世編集長
演題：『地球の歩き方 山口市』制作記念講演～地球の魅力の見つけ方～
【交流会】13:00～14:30
- 会費：6,000円（交流会に参加されない方及び学生の方は1,000円）
※詳しくは、同封のチラシをご覧ください。

＜ **山口七夕会 第12回八木重二郎杯 会員親睦ゴルフ** ＞

- 日時：令和7年11月11日（火）8:30 キヤディーマスター室前集合
- 場所：オリンピックナショナルGCウエストコース
埼玉県入間郡毛呂山町滝ノ入1724
- 会費：プレー費+飲食費（昼食/表彰式：各自精算）、プレーフィー約14,000円（キャディーなし）
※詳しくは、同封のチラシをご覧ください。

＜ **令和7年度山口七夕会ふるさと山口本部 総会&「夏の講演・交流会」** ＞

- 日時：令和7年8月16日（土）18:00～21:00
- 場所：セントコア山口（山口市湯田温泉3丁目2-7）
- 講師：住田和明（元陸将・元陸上総隊司令官）
- 会費：8,000円（講演会のみは1,000円、非会員は+500円）
※詳しくは、同封のチラシをご覧ください。

＜ **令和7年度山口七夕会ふるさと山口本部「秋の講演・交流会」** ＞

- 日時：令和7年10月18日（土）18:00～21:00
- 場所：セントコア山口（山口市湯田温泉3丁目2-7）
- 講師：江端希之（山口市徳地三坂神社宮司）
- 会費：8,000円（講演会のみは1,000円、非会員は+500円）予定

＜ **令和7年度山口七夕会ふるさと山口本部 第9回酬祭** ＞

- 日時：令和8年3月7日（土）18:00～21:00
- 場所：セントコア山口（山口市湯田温泉3丁目2-7）
- 講師：新谷文子（わかむすめ醸造元 新谷酒造（株）杜氏）
- 会費：8,000円（講演会のみは1,000円、非会員は+500円）予定

＜山口市役所より＞ 山口市ふるさと産品販売イベントの御案内

平素から、山口七夕会の皆様におかれましては、本市の産業振興に多大なる御理解と御協力をいただき、誠にありがとうございます。山口市では、ふるさと産品を販売するイベントを日本橋と三軒茶屋で開催いたします。ぜひ、お越しください。



【山口市の選りすぐり！名産品フェア】
日時：令和7年7月18日(金)・19日(土)
会場：おいでませ山口館(日本橋)



【やまぐち Happiness フェスタ 2025(仮)】
日時：令和7年9月13日(土)・14日(日)
会場：三軒茶屋ふれあい広場

ふるさとやまぐち寄附金(ふるさと納税)のお知らせ

さて、皆様御承知のとおり、ふるさと納税制度につきましては、生まれ育ったふるさとや関わりの深い地域を応援したいという気持ちを寄附という形でまちづくりに貢献できる仕組みでございます。

昨年度、本市におきましては、山口七夕会の皆様をはじめ、全国各地の皆様から約4億6千万円の御寄附をいただきまして、本市の子育てや教育などの様々なまちづくりの取組に活用させていただいたところでございます。御寄附をいただきました皆様に改めて感謝とお礼を申し上げます。

本市のふるさと納税につきましては、御寄附をいただきました皆様方へお送りする返礼品として、「阿知須牛」や「あいおえび」、「湯田温泉宿泊割引クーポン」など、現在、約500点以上の商品やサービスを取り揃えております。

寄附額：24,000円
阿知須牛モモ肩肉薄切 400g



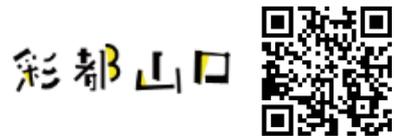
寄附額：17,000円
活きあいおえび 450g (10~18尾)



寄附額：53,000円
湯田温泉宿泊割引クーポン



その他のふるさと納税返礼品や寄附の仕方につきましては、右記QRコードから御確認いただけます。



今後も、ふるさと納税の取組を通じまして、「ふるさと山口」に熱いエールを送っていただきますようよろしくお願いいたします。

山口市商工振興部 ふるさと産業振興課
ふるさと産品営業担当
《tel》083-934-2812
《E-mail》furu@city.yamaguchi.lg.jp

※「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

< 会報山口七夕会への投稿を募集します >

1. 大使の一言(「山口七夕ふるさと大使」の皆さんの自己紹介記事やメッセージ)
2. 私の一言(会員の皆さんの自己紹介記事やメッセージ)

★テーマの一例

- (1) 山口市に関する豆知識
- (2) 山口県外にある山口ゆかりのものや活動
- (3) 今、思っていること

★字数

1,200 字程度の文章と写真 2 枚程度を基準。紙面構成上、フォント、行間等を調整します。

★投稿締切

6月号(5月中旬まで)、9月号(8月中旬まで)、1月号(12月中旬まで)

次号から編集長が交代
します。新編集長は
西村弘文さんです。

★投稿提出先

下記に電子データ(Word形式)でお送りください。

会報山口七夕会編集長(西村 弘文):joe-levin01@outlook.jp



< 重要 > < 公開会員名簿への掲載承諾のお願い >

会員相互の交流促進や会の活性化に役立てばと、記載事項を限定した「公開会員名簿」を作成・発行しました。作成に当たっては、名簿への記載についての承諾を必要としておりますので、今後、趣旨に賛同していただける方は、記載を承諾する旨を下記まで連絡願います。「公開名簿で懐かしい名前を見つけて交流が再開した」といったことになればと考えています。

記

メールの場合：seki@8011.jp (関 周 宛)

郵送の場合：〒114-0034 北区上十条 3-3-16 関 周 宛

< 重要 > < メールアドレス登録のお願い >

2025年、山口七夕会はライブや各種イベント、ウェブ抽選会など「新しい企画」にどんどん取り組んでいきます。
新しい企画はメールを主用してご案内していきますので、メールアドレスの登録をお願いします。
現状、個人会員 384 名のうちメールアドレスを登録されている方は 251 名ですが、その内の 37 名は送信不能ですので、既に登録されている方も確認のため再度登録をお願いします。

【登録方法】

●QRコードリーダー付きのスマートフォンから登録される方は、右のQRコードを読み込んでください。



●パソコンから登録される方は、本文にご自分のメールアドレスを入力して、「seki@8011.jp」にメールを送信してください。

【事務局からのご案内】

◎転居されるご予約のある方は…転居予定日、転居先を任意の様式でかまいませんので、下記までご連絡ください。(ご連絡がないと会報 山口七夕会や市報等の資料が届かなくなってしまう)

◎退会を希望される方は…退会されるのは残念ですが、任意の様式でかまいませんので、下記までご連絡ください。(会員録の整理などの事務手続に必要となります)

◎会の運営等に関するご意見があれば下記までお寄せください。

★事務局(山口市企画経営課内) 〒753-8650 山口市亀山町2番 TEL 083-934-2746
kikaku@city.yamaguchi.lg.jp

【編集後記】

会員の皆さん、こんにちは。今回の表紙の写真は、現在の国宝「瑠璃光寺五重塔」。屋根葺き替え工事のため覆われていた足場が撤去されました。その優美さは「日本一」と言っても過言ではない五重塔を無料で拝観できる山口市って凄いいと思います。

自分はR7年3月末、37年間奉職した山口県庁を61歳で定年退職。4月からは民間の建設コンサルタント会社の山口営業所に席を置いています。変な自慢ですが、新一万円札の顔、渋沢栄一のイニシャルはE.S.、自分の名前は「庄 栄一郎」なので同じくE.S.。そして渋沢栄一は大蔵省を辞して一民間人として活動しましたが、自分も県庁を辞して民間企業に。全く人間のスケールは違いますが。

山口市役所では5月の連休明けから新本庁舎での業務が始まりました。自分の民間企業での仕事の一つが官公庁への挨拶回り。山口市役所にも営業に行くのですが、旧庁舎時代は業者用の名刺入れが各部署に設置されていたのが、新庁舎では名刺入れは一切なくなっていてショック。

「ペーパーレス化」の一環なのでしょうか。でも山口七夕会ふるさと山口本部の役員をした役得、名刺入れはなくとも、たまたまお会いした企画経営課の職員の方は名刺を快く受け取って下さいました。

さて、私は、機関誌編集長を本号をもって退任させていただきます。平成5年9月号(第52号)～平成7年6月号(第57号)までの6回を担当させていただきました。2年間お世話になりました。その間、機関誌に寄稿していただいた皆さん、ご協力ありがとうございました。

何分「編集長」という役目は自分の人生で初めての経験。不慣れな対応、ごこちない編集で会員の皆様には大変ご迷惑をおかけし申し訳ありませんでした。後任は自分の前の編集長の西村弘文さんが引き受けて下さいました。どうもありがとうございます。

機関誌編集長を退任すると同時に、ふるさと山口本部の事務局長も退任させていただきます。もともと事務局長補佐、として役員としては残りますから、ふるさと山口本部のイベントには新事務局長の住田さんを補佐し参加します。ふるさと山口本部のイベントでお会いしましょう。

機関誌編集長 庄 栄一郎